

本マニュアルは、いなべ市地域クラブ活動指導員（以下「指導員」という。）が地域クラブ活動の指導をするにあたって、一般的に留意しなければならない安全管理上の主な事項について列挙しています。

指導員は、以下の事項を認識し、それを生徒と共有しながら活動することで、地域クラブ活動を安全で有効な活動にしていきます。

I 基本の心得

- 1 安全管理は自己管理が基本であることをよく認識し、自らの安全は自らが確保する認識を持って活動します。
- 2 安全管理の基本に服装があることをよく認識し、活動や気象状況に適した服装を着用します。
- 3 活動の開始時に出欠確認をします。連絡がない欠席者がいた場合は保護者と連絡をとります。状況によっては保護者と連携して確認作業を行います。
- 4 活動前に全生徒の体調を把握します。その際、体調不良者や十分な飲食及び睡眠を取っていない生徒がいた場合は、家庭生活に配慮したうえで指導をし、活動への参加方法を指示します。
- 5 活動場所の状況を把握し、危険になりうる場所や道具を確認します。そのうえで適切かつ安全な活動内容を組み立てます。また、道具の管理を徹底することで事故を防止します。
- 6 参加大会だけでなく、学校行事等も踏まえて計画的に活動を行います。また、計画にとらわれることなく、疲労度等の状況によっては、計画を変更したり活動を中止します。

II 雷

- 1 気象災害における過去の事例等を周知し、雷が極めて危険であることを認識するとともに、安全確保に万全を期します。
- 2 雷鳴が聞こえる場合は直ちに練習を停止して、生徒を安全な場所に

避難させます。雷鳴が鳴りやんだ後も、気象状況を把握し、安全が確実に確保できるようになってから活動を再開します。また雷鳴が聞こえない状況でも、雷注意報等の気象状況を把握し、安全確保に万全を期します。

- 3 練習時だけでなく、帰宅時の気象状況も把握し、安全確保に万全を期します。

III 熱中症

- 1 熱中症が、万全の準備をすることにより高い可能性で発症を防ぐことができる疾病だということを認識し、指導します。
- 2 練習開始時及び練習中に、湿球黒球温度〈WBGT〉計で暑さ指数を計測します。計測の頻度は1時間に1回程度とします。
- 3 いなべ市小中学校熱中症対策マニュアル：暑さ指数等に応じた学校における対応を参考に練習計画を立て、暑さ指数が31℃を超えたときは、躊躇なく練習を停止します。また暑さ指数が31℃未満の場合でも、適度な休憩を与えて水分補給の指導をするとともに、活動中でも個人判断で水分を補給するよう指導します。また、発汗により体内の塩分が不足することを周知し、塩分補給の指導もします。
- 4 熱中症が体内に熱が滞ることにより発症することを知り、風通しの良い服装、吸汗・速乾素材の服装で活動するよう指導します。
- 5 熱中症の危険度に個人差があることを知り、生徒個々の暑さの感じ方を把握します。
- 6 体調不良者が出た場合は、躊躇することなく、練習を停止し、状況を確認の上、練習継続を判断します。
- 7 体調不良者には、体に熱がこもりにくい環境下に避難をさせ、水分、電解質、糖質を摂取させます。いったん症状が好転しても、再度悪化する場合があります。指導員が必ず看病し、体調に変化があれば救急搬送をし、医療機関で受診させます。
- 8 体調不良者を、たとえ回復したように見えても一人では帰宅させず、必ず保護者に引き渡します。